

**研究課題名：SROIによるステークホルダー参加型事業評価の研究**

(修士論文題目：SROI (社会的投資収益率) によるマルチ・ステークホルダー協働型事業  
の評価とその活用～参加型ガバナンスの視点による考察～)

所属・学年：政策・メディア研究科 修士課程2年

研究者氏名：山本 紗知

## 1. 研究要旨

非営利組織や社会的事業のパフォーマンス(業績)を定量的に評価する手法として、英米で発展し普及が進んでいるSROI(社会的投資収益率)は、評価プロセスにおいてステークホルダー間で事業の成果について協議を行うことから、マルチ・ステークホルダー間の合意形成や事業の改善に向けた協働を促進する手法としても有用性が期待されている。

本研究は、社会的事業において異なるセクター間の協働に基づく参加型ガバナンスを実現するための一手法としてSROIの有用性を検討することを目的に、参与観察によるSROI評価の事例研究と理論研究を行い、SROIの評価プロセスを通じてマルチ・ステークホルダーが情報を共有し、共通認識を形成するプロセスについて、帰納的に仮説の導出を試みた。

研究の結果、SROIの評価プロセスにおいては、インパクトマップがステークホルダー間の共通認識を形成する道具・共通基盤として機能していることが仮説として導出された。

キーワード

1. SROI (社会的投資収益率)、
2. マルチ・ステークホルダー、
3. 合意形成、
4. 協働、
5. 参加型ガバナンス

## 2. 活動報告

### (1) 理論研究

SROIの評価プロセスで行われるステークホルダー間の相互作用、共通理解の形成のダイナミクスを理論的に捉え、仮説の導出につなげるため、本章では、シンボリック相互作用論、意味づけ論における主体間の相互行為と共通理解の形成、合意形成論について理論研究を行った。

### (2) 事例研究

千葉県佐倉市の社会福祉法人が実施する就労支援準備事業および就労訓練事業(いわゆる「中間的就労」)の成果を定性的・定量的に測る調査研究事業を対象とし、SROI評価プロセスの参与観察を行った。

2014 年度 森泰吉郎記念研究振興基金  
成果報告

実施調査

検討委員会開催日時	主な議題	SROI 評価ステップ
2014 年 6 月 18 日 14:00 ~16:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査研究事業の趣旨と事業内容</li> <li>調査分析手法</li> <li>IPS について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SROI に関する理解の促進</li> <li>SROI 評価の目的・対象スコープの確認</li> </ul>
2014 年 7 月 25 日 14:00~16:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活困窮者の IPS 支援体制構築</li> <li>調査対象者・比較対照群</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象スコープの詳細・具体化</li> </ul>
2014 年 9 月 3 日 13:00~14:45	<ul style="list-style-type: none"> <li>SROI 分析計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダーの特定</li> <li>インパクトマップ案の検討</li> <li>アウトカム指標案の検討</li> </ul>
2014 年 11 月 20 日 15:00~17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>受益者へのヒアリング・アンケート調査中間報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受益者へのヒアリング結果の共有</li> <li>インパクトマップの検証</li> </ul>
2014 年 12 月 24 日 14:00~15:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>SROI 評価結果の報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SROI 評価結果の共有</li> </ul>

(3) 仮説の導出

理論研究・事例研究に基づき、リサーチ・クエスチョン「SROI の評価プロセスを通じて、ステークホルダーは、何をどのように学び合い、共通理解を形成するのか？」に対し、以下の仮説を導出した。

- 仮説 1 : SROI 評価プロセスにおいて、インパクトマップがステークホルダー間の共通認識を形成するための解釈の道具（「定義の図式」）として機能すると同時に、ステークホルダー間の共通基盤として編集・再編集されていく。
- 仮説 2 : SROI 評価プロセスにおいて、ステークホルダーは、課題の時間的・空間的視野、課題解決に関する判断基準、課題解決に関する情報を共有し、共通認識を形成する。

以上